

各作業部会などの任務 (PCTD/Knowledge)

| 部会等 | 任務 |
|---|---|
| ICIDジャーナル編集委員会 ICID Journal Editorial Board (EB-JOUR) | (a) 共同編集者とともに、編集方針に沿ってジャーナルが発行されるようにする。 (b) 共同編集者、アソシエイト・エディター、メンバーを選出し、PCTA (技術活動委員会) を通じて IEC (国際執行理事会) に推薦する。 (c) 必要に応じて編集方針を見直し、ICIDの発展途上の目的に合わせて更新する。 (d) ジャーナルに関連する問題を取り上げ、解決する。 (e) 著者、原稿審査員、書評審査員のガイドラインを見直し、ICID作業部会との連絡・調整を行う。 [設立：1994年] |
| 歴史部会 Working Group on History of Irrigation, Drainage and Flood Control (WG-HIST) | (a) 様々な国の ICID 国内委員会が歴史に関する国内作業部会を設置するように促すこと。 (b) かんがい、排水、洪水管理の歴史に関する文書を編集、出版、更新、翻訳するための指導を行う。 (c) このテーマに関する技術開発を正しく理解するために、このテーマに関する情報、知識、経験の学際的な交換を促進し、ネットワークを構築すること (農業的、政治的、社会経済的、気候的、地理的な側面)。 (d) 水の歴史に対する認識を高めるため、ICID会議でセミナーを開催する。 (e) Irrigation and Drainage (IRD) Journalに掲載する「Historical Water Sustainability」に関する論文を作成する。 (f) 「Historical Water Sustainability」に関する書籍を完成させる。 (g) 水の歴史に関するドキュメンタリー番組の制作を会員国に奨励する。 [設立：1998年] |
| 能力開発、研修、教育作業部会 Working Group on Capacity Development, Training and Education (WG-CDTE) | (a) 委員会の知識管理活動および様々なWGによる能力開発活動の調整と指導を行う。 (b) 各地域で行われているトレーニングや教育プログラムの状況をまとめる。 (c) 各地域で実施されているかんがい・排水に関する教育プログラムをまとめる。 (d) 研修・教育要件を特定し、利用可能な研修プログラムのギャップを特定し、教育・研修プログラムを支援するために、e-ラーニングプログラムの開発の可能性を探り、その開発のためのガイドラインを作成する。 (e) 遠隔教育を含む能力開発におけるITの利用範囲を検討し、実現可能な場合は実施する。 (f) 持続可能な開発に必要な様々なツールを利用可能にする。 (g) NCを支援するための技術サポートユニットの設立と機能を監督する。 (h) 教育・訓練の必要性と訓練サービスの提供のバランスをとるプロセスを促進する。 [設立：2015年] |
| 第9回世界水フォーラムタスクフォース Task Force to Guide ICID Inputs to World Water Forum 9 (TF-WWF9) | (a) 国内委員会および作業機関と連携し、第9回WWFのモニタリングおよびインプットを提供する。 (b) 第9回 WWF の準備作業のための国内委員会との連携。 (c) 第9回WWFプログラム委員会およびFAO、IWMI、APPC、WBなどを含む他の国際機関との連携。 (d) 世界水会議におけるICIDの可視性を促進すること。 [設立：2018年] |
| バリューエンジニアリング部会 Working Group on Value Engineering (WG-VE) | (a) 各国の ICID 国内委員会が国内作業部会を設置するための動機付けを行う。 (b) バリューエンジニアリング (VE) ・プロジェクト (かんがい、排水、洪水管理、河川工学) に関する文書を編集、出版、更新、翻訳するためのガイダンスを提供する。 (c) このテーマに関する情報、知識、経験の学際的な交換、およびネットワーキングを促進すること。 (d) ICIDの大会や会議でセミナーを開催し、VEの重要性に対する認識を高めること。 (e) 「かんがいおよび洪水プロジェクトにおけるVEの適用」に関する論文を作成し、Irrigation and Drainage (IRD)誌に掲載すること。 (f) 「かんがいおよび洪水プロジェクトにおけるVEの適用」に関する書籍を完成させること。 (g) メンバー国がVEのケーススタディに関する論文を作成することを奨励する。 [設立：2012年] |
| 多言語技術辞書タスクフォース Task Force for Updation and Maintenance of Multilingual Technical Dictionary (TF-MTD) | (a) AWM の専門家が頻繁に参照／相談する優先順位の高い章や用語を特定する。 (b) 章や用語を充実させるために、専門機関に協力を要請する。 (c) 用語／章を検討する専門家／作業部会を特定する。 (d) 英語・フランス語に加えて、追加の翻訳を準備・構築することをNCに奨励する。 (e) 必要に応じて、様々な用語を説明するのに適した興味深い絵や図を特定する。 (f) ウェブやモバイルでアクセスできるようにする。 [設立：2016年] |

各作業部会などの任務 (PCTD/Basin)

| 部会等 | 任務 |
|--|--|
| <p>環境部会 Working Group on Environment (WG-ENV)</p> | <p>かんがい・排水セクターの政策立案者、計画者、設計者、管理者に対し、かんがい・排水システムの環境的側面 ((i)物理的、(ii)化学的、(iii)生態学的、(iv)社会経済学的、(v)文化的) に関するガイドランスを提供すること。</p> <p>気候、生物多様性、人間の健康など、地域、地方、世界の共通財への影響への懸念に対応すること。</p> <p>かんがい・排水システムのプラスの効果を最大化し、マイナスの効果を最小化するために、適切な慣行、適切な政策、制度を通じて、持続可能な環境の管理に向けて取り組むこと。</p> <p>[設立：2015年]</p> |
| <p>干潮地域の持続開発部会 Working Group on Sustainable Development of Tidal Areas (WG-SDTA)</p> | <p>(a) 根本的な問題を解明することにより、現在および将来における干潮地域の既存および潜在的な課題と機会を理解すること。</p> <p>(b) 地球規模の気候変動により干潮地域のリスクが増大していることへの認識を高め、その影響、緩和、適応に関する学際的な議論を喚起すること。</p> <p>(c) かんがい・排水施設の調査・設計技術、監視・管理プログラムを強化し、世界の干潮地域環境に関する情報収集に応用する。</p> <p>(d) 干潮地域における持続可能な開発と管理のオプションを特定し、生態系サービスを認識した上で、干潮地域の保全と開発のバランスを見つけること。</p> <p>(e) 干潮地域における学際的かつ参加型の土地・水計画および管理を促進するために、国際的な対話に参加し、国際会議や短期コースを開催する。</p> <p>(f) 他の関連ワーキンググループと積極的に協力し、国内委員会間で関連する経験を交換し、開発途上国や後発開発途上国への支援を行うこと。</p> <p>[設立：2017年]</p> |
| <p>水需要競合地域における水不足対応作業部会 Working Group on Managing Water Scarcity under Conflicting Demands (WG-MWSCD)</p> | <p>水使用の優先順位の変更や相反する需要に対応するために水系を管理するために取られた行動に関する情報、知識、可能であればケースヒストリーを収集する。</p> <p>(a) 情報は、3つのレベルの水管理について収集される：(1)国、(2)地域または流域、(3)地域。</p> <p>(b) 情報を検討・分析し、共通点を見出す。</p> <p>(c) 作業部会に参加している国の最近の開発状況に関する報告書やケーススタディを作成し、発表する。</p> <p>(d) トピックに関する国際ワークショップの開催。</p> <p>(e) そのテーマに関する概要論文を作成し、出版する。</p> <p>[設立：2016年]</p> |
| <p>気候変動と農業用水管理作業部会 Working Group on Climate Change and Agricultural Water Management (WG-CLIMATE)</p> | <p>(a) 世界的・地域的な気候変動や気候変動の予測に関する情報を共有する。</p> <p>(b) かんがい、排水、洪水対策を含む農業用水管理に対する気候変動の影響を調査・分析する。</p> <p>(c) 気候変動に関する有用な情報やケーススタディをアーカイブ化し、影響評価や適応策の策定に役立てること。</p> <p>(d) 学者、実務者、意思決定者、メディア、地域の農民や水利用者などの関係者の中で、国や地域のスケールでの気候変動と水管理についての議論を深める。</p> <p>[設立：2015年]</p> |
| <p>社会・経済変革期にある国家におけるかんがい排水部会 Working Group on Irrigation and Drainage in the States under Socio-Economic Transformation (WG-IDSST)</p> | <p>(a) 移行国に共通する問題のモニタリングと評価を確立することを基盤に、移行国間のネットワークを開発・強化し、各国の意思決定者の注意を喚起すること。</p> <p>(b) これらの国におけるかんがい・排水の状況変化に関するデータベースの作成と情報交換を行い、特に気候変動とそれに適応する能力に関連して、世界と国の食糧安全保障と農村人口の福利に影響を与える既存の傾向に、世界と国の関心を集めること。</p> <p>(c) IWRM の原則の実際の内容を説明するケーススタディやベスト・プラクティスを普及させることにより、IWRM の実施を促進し、関係者の理解を深めること。</p> <p>(d) 閉鎖的な流域 (アラブ海、チャド湖、ビクトリア湖、カスピ海)、河川の三角洲、塩類化、水枯渇、土地の砂漠化などの問題を含む、移行国の生態系の状況を監視すること。</p> <p>(e) 移行国での使用に適した先進的なかんがい・排水技術を収集し、キャパシティビルディングを通じて普及させること、これらのイノベーションの提供者として若い専門家の参加を促進すること、I&Dにおけるリモートセンシング技術の使用に特に注意を払うこと。</p> <p>(f) 農業用水管理に関する意識を高めるために、農民やWUAのトレーニングを促進する。</p> <p>(g) 作業部会の効率と機能を向上させるために、他国との連携を強化し、社会経済的に変化している国のかんがい・排水の開発に関するベストプラクティスと経験を共有する。</p> <p>[設立：2009年]</p> |
| <p>統合的洪水管理部会 Working Group on Adaptive Flood Management (WG-AFM)</p> | <p>(a) 各国のICID国内委員会に国内作業部会の設置を促す。</p> <p>(b) 統合的洪水管理に関する文書の編集、出版、更新および/または翻訳のための指導を行う。</p> <p>(c) 統合的洪水管理の技術開発を適切に理解するために、情報、知識、経験の学際的な交換、およびネットワーク化を促進する。</p> <p>(d) 洪水が農業用水管理に与える影響に焦点を当て、コミュニティの参加を含む洪水への適応および対処についての理解を深めるために、ICIDの大会や会議においてセミナーを開催する。</p> <p>(e) Irrigation and Drainage (IRD) 誌に掲載する「統合的洪水管理」に関する論文を作成する。</p> <p>(f) 「統合的洪水管理」に関する書籍を完成させること。</p> <p>[設立：2018年]</p> |
| <p>水・食料・エネルギー連結部会 Working Group on Water Food Energy Nexus (WG-WFE-N)</p> | <p>(a) 水・食料・エネルギーの連結に関する情報、知識、経験を交換し、ネットワークを構築することで、新しい開発、手法、アプローチを常に把握する。これは、連結の重要な問題に関するポジション・ペーパーを作成するための基礎となる。</p> <p>(b) 関連分野における水の利用効率と生産性の向上に関する技術の現状についての概要文書を作成する。</p> <p>(c) 気候変動の影響と非在来型の水消費量の少ない作物の利用の可能性に関する文書を作成する。</p> <p>(d) 関連分野における水、作物、畑、エネルギー管理のための有用な管理ツールとしてのモデルの利用に関する技術の現状についての概要文書を作成する。</p> <p>(e) 作業部会に参加している国での最近の開発事例や、ワークショップで発表された事例についての報告書を作成し、発表すること。</p> <p>(f) 連結をテーマとした国際的なワークショップ、セミナー、シンポジウムを開催する。</p> <p>(g) ICID 2030ビジョンの実現。</p> <p>[設立：2020年]</p> |

各作業部会などの任務 (PCTD/Schemes)

| 部会等 | 任務 |
|---|---|
| <p>かんがい排水施設管理の制度と組織作業部会 Working Group on Institutional and Organizational Aspects of Irrigation / Drainage System Management (WG-IOA)</p> | <p>(a) 水供給サービスのための水利組合の法的枠組みと組織構造：(1)かんがい・排水システムの持続的な運営・維持管理のための制度的・組織的要件、(2)かんがい・排水システムの管理・運営・維持管理のための組織的取り決めの改善、(3)かんがい・排水スキームの運営・維持管理のための資金調達、(4)水規制当局、土地所有権問題、水利権に関するアプローチと要件、(5)持続可能な水利組合(WUA)の役割、責任、要件などを含む。</p> <p>(b) 参加型水管理と管理移管：(1)参加型かんがい・排水管理(PIDM)を成功させるためのアプローチと条件、(2)かんがい・排水管理移管(IDMT)を成功させるためのアプローチと条件(かんがい・排水システムの責任と所有権を水利組合に移転するための法律と制度の要件を含む)。</p> <p>(c) 官民パートナーシップとコスト回収のメカニズム：(1)かんがい・排水における官民パートナーシップ(PPP)の可能性と成功のための要件、(2)かんがい・排水サービスの課金とコスト回収レベルの決定のための方法とメカニズムを含む。</p> <p>[設立：2015年]</p> |
| <p>土地と排水部会 Working Group on Land Drainage (WG-LDRG)</p> | <p>(a) 統合水資源管理の一環として、排水を促進すること。これに関連して、作業部会メンバー間で情報、知識、経験の交換を行い、新しい開発、手法、アプローチに対応することを目的とする。作業部会に参加している国の最近の開発に関する報告書及び/又はケーススタディを作成し、発表する。</p> <p>(b) 様々な国の排水計画に関するマニュアル、ガイドライン、実施規範及び基準を収集、検討し、世界共通の基準案を作成する。</p> <p>(c) 環境、経済、社会・文化的側面をバランスよく統合することにより、排水および関連プロジェクトの持続可能なアプローチを促進すること。この観点から、バイオ排水、ドライ排水、管理排水、排水の再利用などの非従来型の排水方法に十分な注意を払う。</p> <p>(d) Irrigation and Drainage (IRD) 誌に掲載するために、このテーマに関する技術の現状についての概要論文を作成すること。</p> <p>(e) 国内委員会の協力を得て、排水関連の会議やワークショップを開催し、2回の国際排水ワークショップ(第14回および第15回IDW)を開催するための緊密な連携を図る。</p> <p>(f) ICIDビジョン2030のロードマップの目標E、戦略E5(かんがい・排水に関するグローバルデータセットの収集)、条項5.3(Datasets for Drainage Area)に従い、作業部会メンバーや国内委員会の情報を通じて、世界排水面積のデータを収集し、更新すること。</p> <p>[設立：2020年]</p> |
| <p>かんがい施設計画の近代化と再活性化部会 Working Group on Modernization and Revitalisation of Irrigation Schemes (WG-M&R)</p> | <p>新たな開発に関する情報を調査、分析、普及させ、以下に関する提言を行う。</p> <p>(a) かんがいスキームの近代化と再生のための計画と準備。</p> <p>(b) 近代化、再生、必要な運用・保守の相互関係。</p> <p>(c) 近代化、再生、必要な運用・保守のための費用分担。</p> <p>(d) 近代化、再生、運用・保守に必要な制度・組織的枠組み。</p> <p>(e) 送水・配水管のライニングの方法と技術。</p> <p>(f) 運河操作におけるインターネット、モバイル通信、遠隔監視を利用した自動化に関する運河制御システム。</p> <p>(g) システムの運用・保守におけるコミュニケーション、運用能力、柔軟性を向上させるための改造。</p> <p>(h) かんがいシステムの標準化と実施規範。</p> <p>[設立：2015年]</p> |
| <p>かんがいの発展と管理部会 Working Group on Irrigation Development and Management (WG-IDM)</p> | <p>(a) かんがいのための水の消費的利用とその結果としてのシステムレベルでの水収支の評価。</p> <p>(b) 利用可能な資源とシステム能力に応じた水需要管理。</p> <p>(c) かんがいシステムの様々な構成要素における水損失の評価、下流の別の用途(非消費型)に利用可能な水の評価。</p> <p>(d) かんがいにおける地表水と地下水の併用、運河の「損失」と「過剰」かんがいによる帯水層の人工涵養を含む、かんがいのための地下水開発と管理。</p> <p>(e) 水の測定方法・装置および関連技術(流量・体積)。</p> <p>[設立：2015年]</p> |
| <p>かんがい地域の節水作業部会 Working Group on Water Saving in Irrigated Areas (WG-WATS)</p> | <p>(a) 水会計及びかんがい監査(及びその他の補助的用途)。</p> <p>(b) かんがい用水測定装置。</p> <p>(c) かんがいシステムの様々なコンポーネントにおける水損失の評価。</p> <p>(d) かんがいにおける水の節約のために使用される様々な方法と技術。</p> <p>(e) かんがい用水の節約のための政策及び戦略。</p> <p>(f) かんがいサービスへの課金。</p> <p>(g) 水の節約における成功例と最良の管理方法。</p> <p>(h) かんがい用水の節約に適用されるツールとプロセス。</p> <p>(i) 節水技術の普及活動。</p> <p>(j) WatSave賞。</p> <p>[設立：2015年]</p> |
| <p>レインウォーターハーベスト部会 Working Group on Rain Water Harvesting (WG-RWH)</p> | <p>(a) 雨水利用の主要原則に基づき、自然で地域に根ざした効率的な水源としての雨水利用を促進する。</p> <p>(b) 水管理、土地利用計画、政策環境、雨水管理、製造など、雨水利用、かんがい、農業に関する情報を提供するため、様々な分野の研究やアドバイスを行う。</p> <p>(c) 都市や農業での使用に適した雨水利用の実施規範を提供する。</p> <p>[設立：2018年]</p> |

各作業部会などの任務 (PCTD/On-farm)

| 部会等 | 任務 |
|--|---|
| <p>非従来型水資源によるかんがい作業部会 Working Group on Use of Non-Conventional Water Resources for Irrigation (WG-NCWRI)</p> | <p>(a) 知識、経験、データを交換し、ネットワークを構築することで、新しい開発、方法、アプローチの最新情報を得る。 (b) 非従来型水資源の様々な側面に関する包括的なレビューと展望の作成。 (c) 廃水、排水、塩水・汽水を含む全ての非従来型水資源に関する技術マニュアル、ガイドライン、規格の作成。 (d) 非従来型水資源をテーマとした国際的なワークショップ、セミナー、会議の開催。 (e) 様々な国の会員によって提示された、非従来型水資源に関する新たな開発の成功事例に関する文書を作成すること。 (f) 非従来型水の利用がかんがい管理の常識となっている加盟国を増やすことで、作業部会のメンバーを拡大すること。 (g) WG-PQWの活動から保留されていた技術図書の発行を確定する。 [設立：2018年]</p> |
| <p>ほ場かんがいシステム部会 Working Group on Sustainable On-Farm Irrigation System Development (WG-SON-FARM)</p> | <p>(a) ほ場のかんがい構造と配水システムのネットワークが適切に設計、設置、管理、維持されていること。 (b) 土壌の水分をモニタリングし、土壌の水の浸透・保持能力を高めるための技術的・管理的措置を検討・実施する。 (c) ほ場かんがい技術、社会経済的・環境的利益の間のトレードオフが最適化される。 (d) 運用・維持管理のための革新的な現地制度の開発と推進。 (e) 科学的・開発的に優れた研究が行われ、その結果が実用的な提言に変換されること。 [設立：2015年]</p> |